

第40回特別展

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

雪原を駆ける 北方民族・冬の移動手段

Running on Snowfield: Winter Transportation of Northern Peoples



トナカイそりでの移動 / コリヤーク(ロシア / マガダン州、2006年、撮影：呉人恵)

2025. 7.19 (土) - 10.19 (日) 休館日 10.6 (月) 10.14 (火)

開館時間 9:00-17:00 (10月 9:30-16:30)

観覧料 一般 450円、65歳以上 300円、高大生 200円

*常設展とのセット : 一般 800円、65歳以上 300円、大学生 320円
高校生 200円(7・8月)、320円(9・10月)



犬ぞり / エスキモー(グリーンランド)
(撮影：城野誠治)

スキー / ドウハ(モンゴル)
(撮影：城野誠治)



会場 北海道立北方民族博物館 特別展示室

〒093-0042 北海道網走市字潮見 309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)

Tel. 0152-45-3888 Fax. 0152-45-3889

主催 北海道立北方民族博物館(指定管理者 一般財団法人北方文化振興協会)

施設設置者：北海道教育委員会(連絡先：北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 代表 Tel.011-231-4111)

雪原を駆ける 北方民族・冬の移動手段

Running on Snowfield: Winter Transportation of Northern Peoples

長い冬の間、北方の大地には雪が降り積もり、川や湖は凍結します。夏とは異なる雪氷に覆われた環境で効率よく移動するため、北方に暮らす人びとはさまざまな工夫をこらしてきました。本特別展では、北方諸民族によって創り出され、洗練されてきた冬の移動手段を紹介します。

スキーとカンジキは、雪上で移動しやすくするために足に付ける道具で、北方地域全域で見られます。スキーはユーラシア大陸の各地に広がり、細長いもの、裏に毛皮が貼られたものなど、いくつかのタイプに分かれていました。北アメリカ大陸では、木枠に革ひもを網状に張ったテニスのラケットのようなカンジキが生まれ、地域ごとに形や編み方が異なるさまざまなタイプに変化しました。



女性用トナカイそり / コリヤーク(ロシア / マガダン州)(撮影：城野誠治)

現在、スキーやカンジキは、冬のレジャーやスポーツにも活用されるようになっています。また、スノーモービルが普及し、犬ぞりやトナカイそりに取って代わりました。それでも一部の北方地域では、今も日常的に伝統的な雪上移動具が使われています。



スノーモービルでの移動 / エベンキ
(ロシア / サハ共和国、2018年、撮影：中田 篤)



カンジキ / プレインズ・インディアン(北アメリカ)



スキーを使った狩猟 / エベンキ
(ロシア / サハ共和国、2015年、
撮影：中田 篤)

雪上・氷上をより早く移動するため、またより多くの荷物を運ぶため、飼いならした動物に引かせる「そり」が創り出されました。

海岸地域や大きな河川の流域では、犬ぞりが使われてきました。家畜トナカイが飼育されてきたユーラシア大陸には、トナカイそりが広がりました。

関連事業

- 講座「グリーンランドのそりを組み立ててみよう」
日時：2025年7月12日(土)10:00～12:00
講師：日下稜(当館学芸員)
- 特別展関連講演会「北方地域の犬ぞり文化」
日時：2025年7月19日(土)10:00～11:30
講師：北原モコットウナシ氏
(北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授)
中田篤(当館主任学芸員)
- 特別展解説講座
日時：2025年8月16日(土)10:00～11:30
解説：中田篤(当館主任学芸員)

北海道立北方民族博物館 Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)
Tel. 0152-45-3888 Fax. 0152-45-3889
E-mail. tonakai@hoppohm.org URL <https://hoppohm.org>

◆ アクセス ◆

網走駅前から約5km バス14分(観光施設めぐり線、バス停「北方民族博物館」下車)
女満別空港から約17km 無料駐車場100台

